

第37回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会②】

日時：2023年11月1日（水）

全体会・部会①・部会②・部会③ 10:00～12:00（予定）

場所：JR東日本現地会議室

次 第

【部会②】

(1) 開会

(2) 調査の進捗について 【資料1】

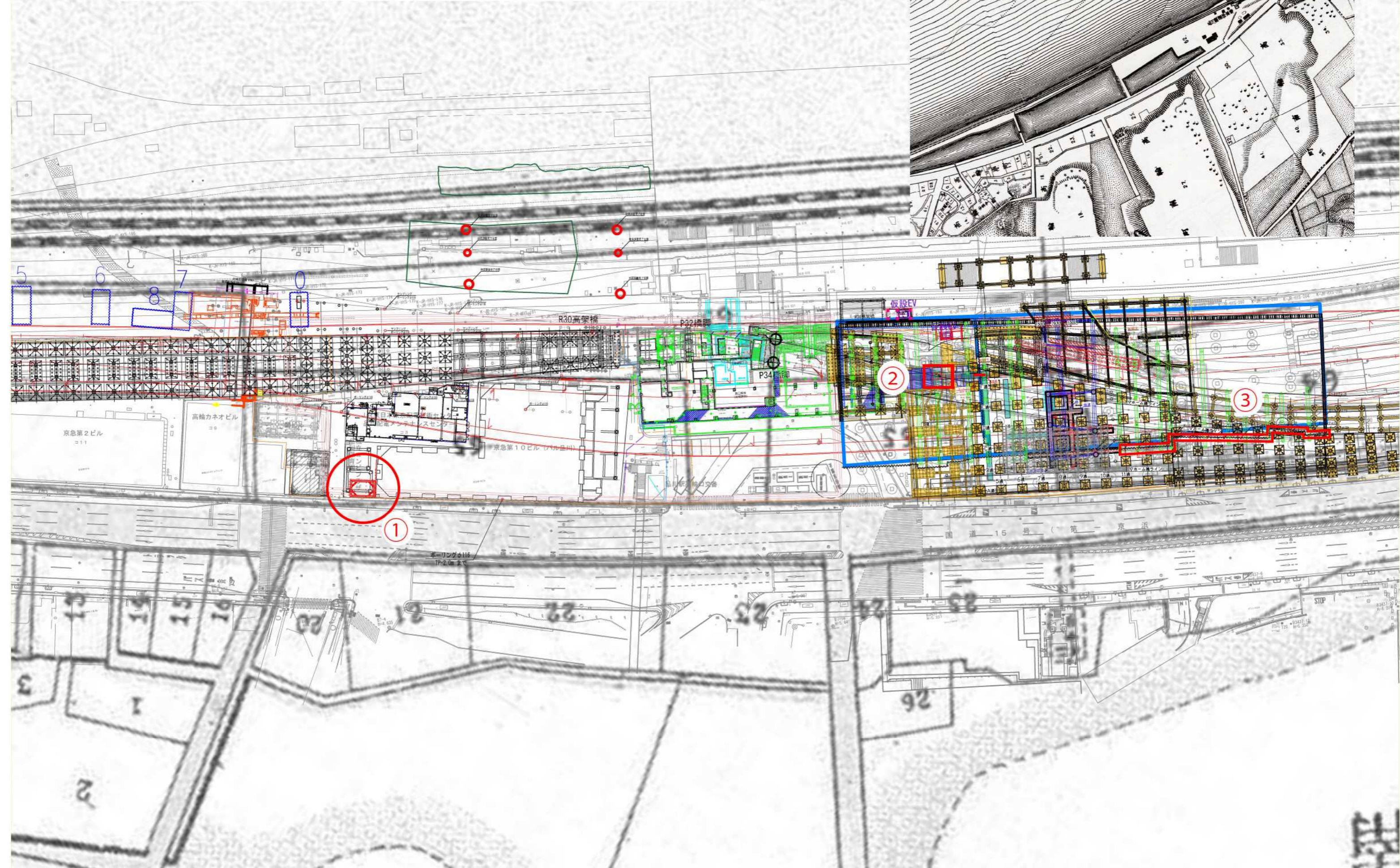
(3) 京急線連立遺構への影響低減に向けた仮設計画の見直しについて 【資料2】

(4) その他

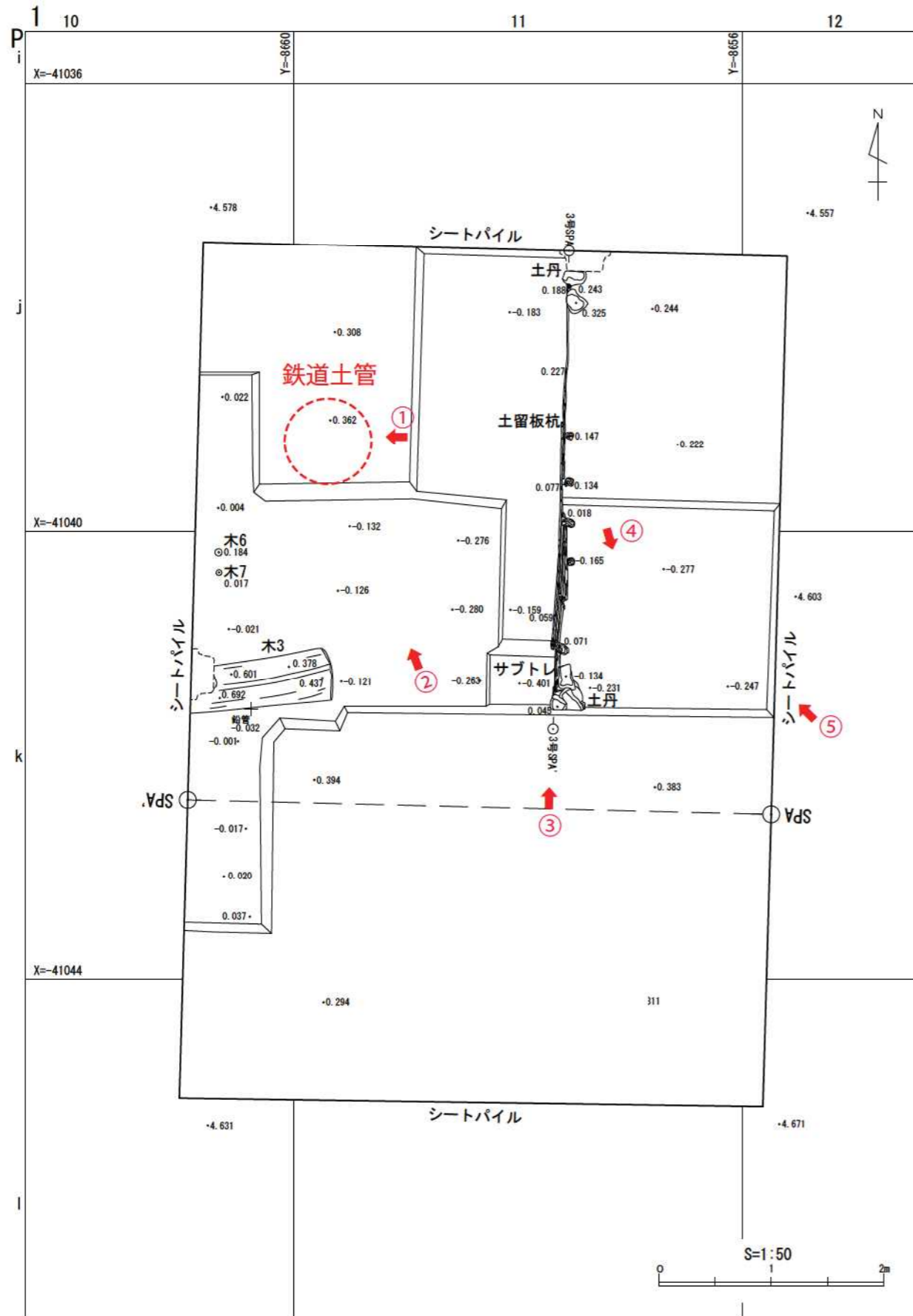
(5) 閉会

駅街区地区の試掘調査の進捗について(2023. 10. 27現在)

明治20年



北棟事業用地内における試掘調査



※図面上の数字は、すべて標高 (TP) である



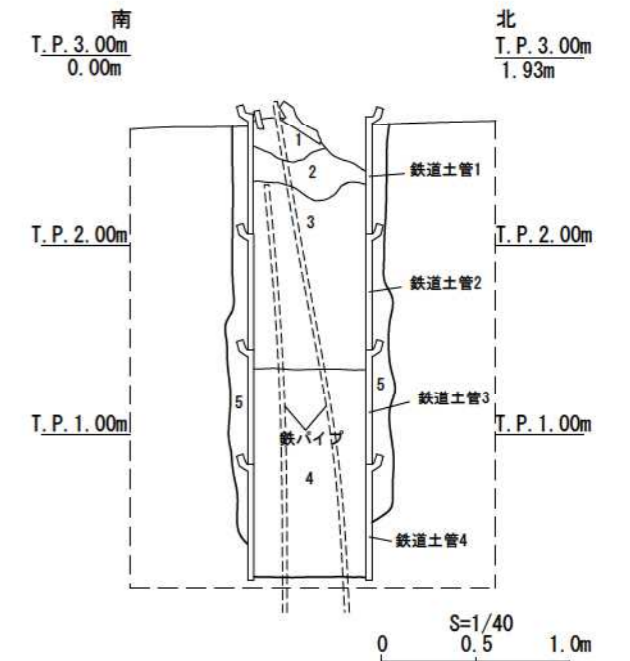
鉄道土管裁ち割り状況 (写真①)



鉄道土管検出状況 (写真②)



板柵列検出状況 (写真③)



板柵列東側土丹検出状況 (写真④)



木6・7検出状況 (写真⑤)

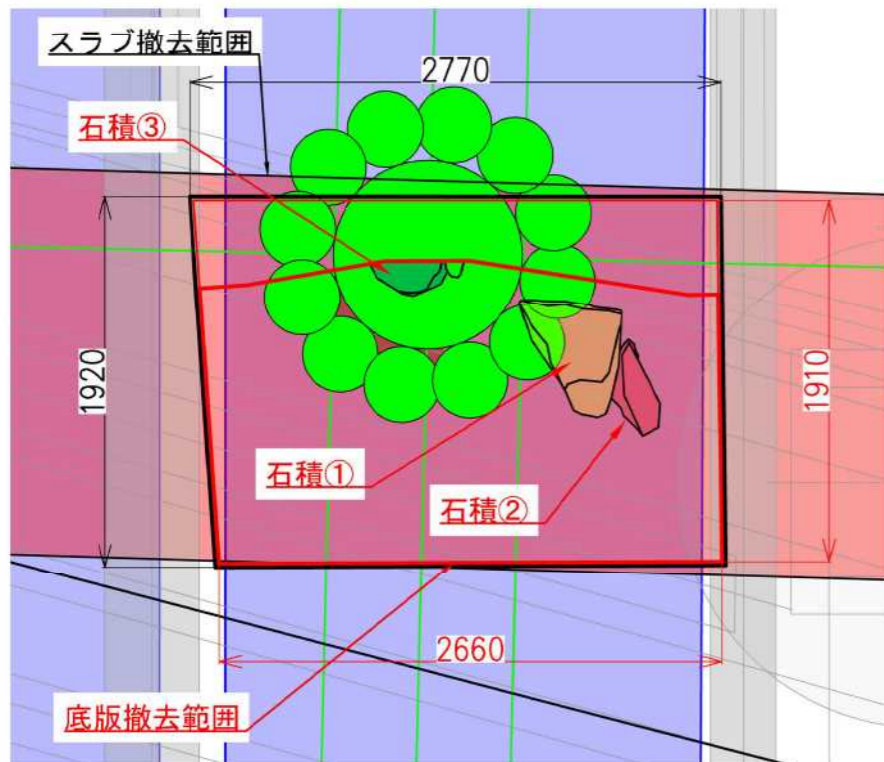
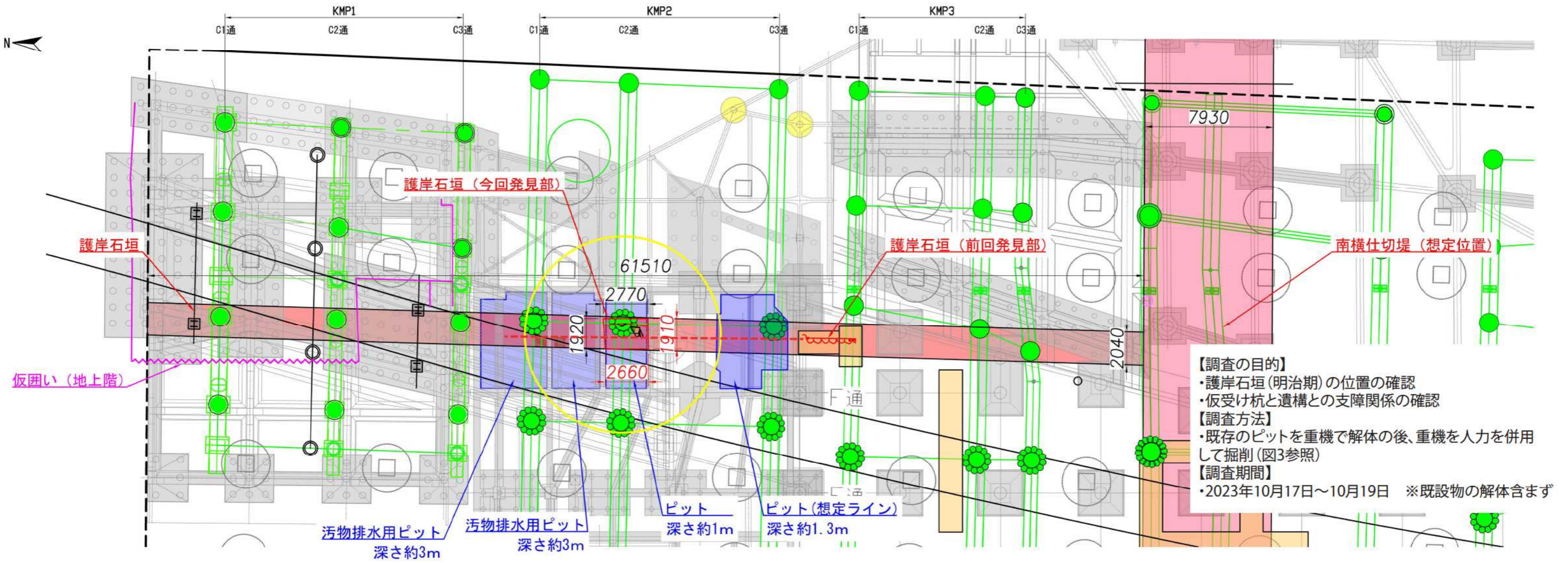


図1 調査位置拡大図(S=1/40)

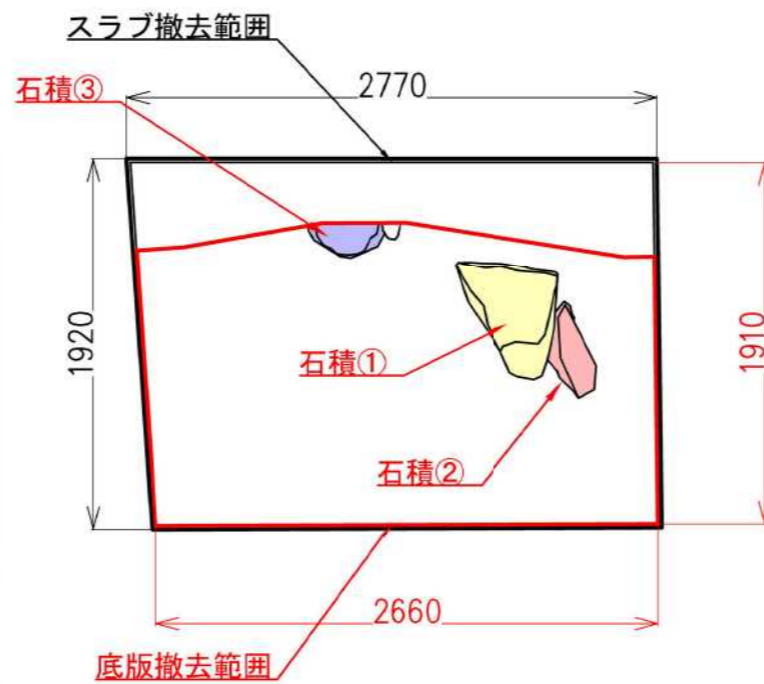


図2 平面図(S=1/40)

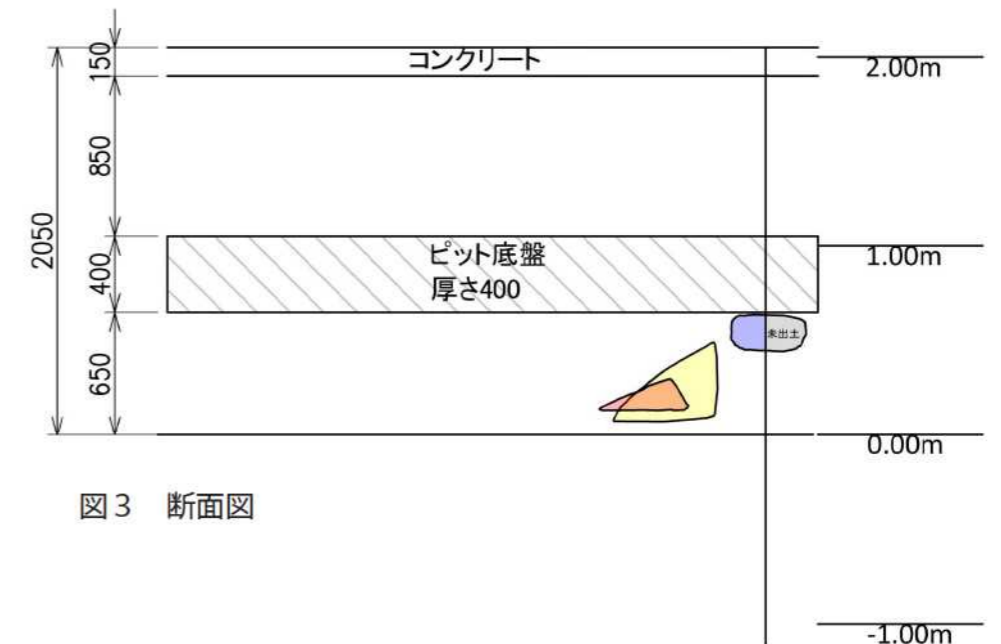
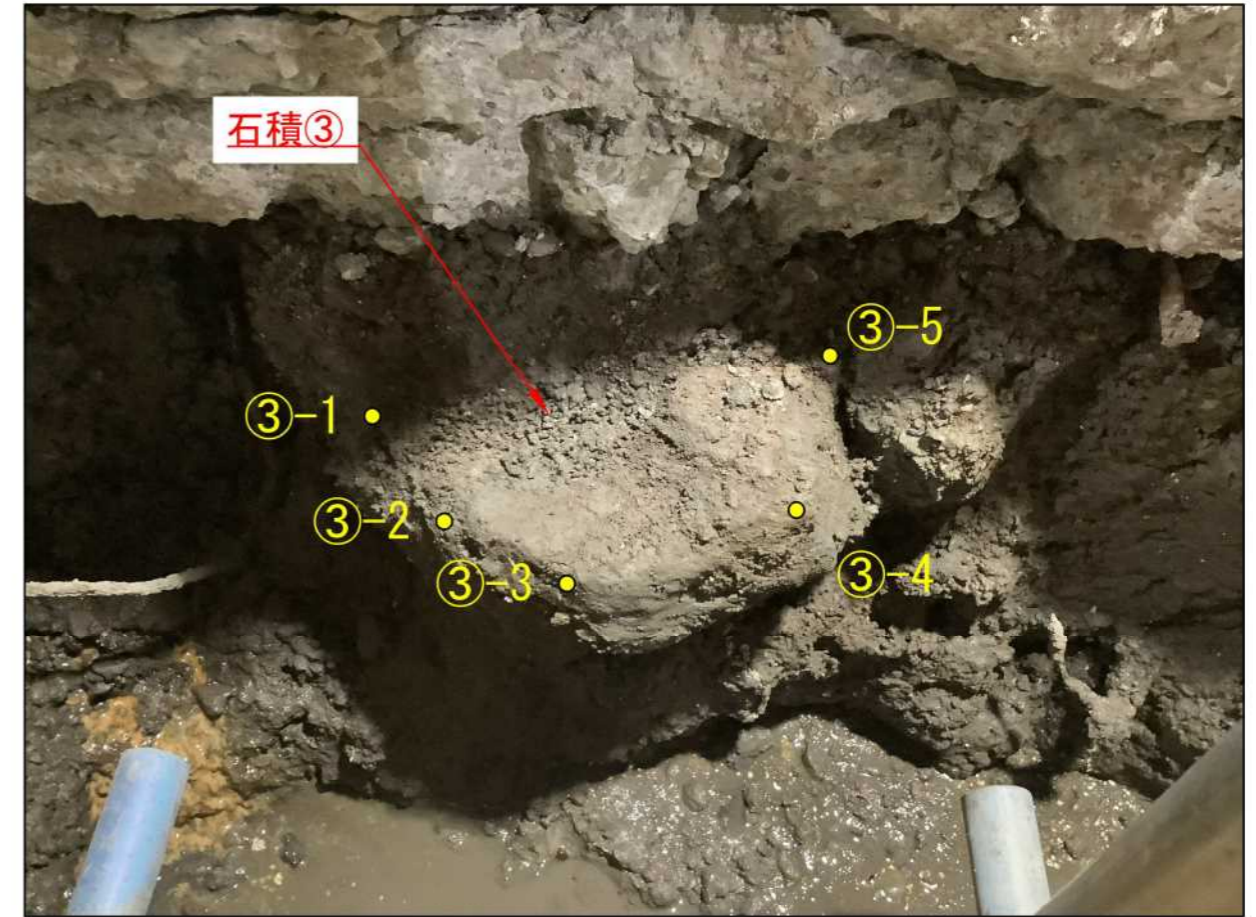


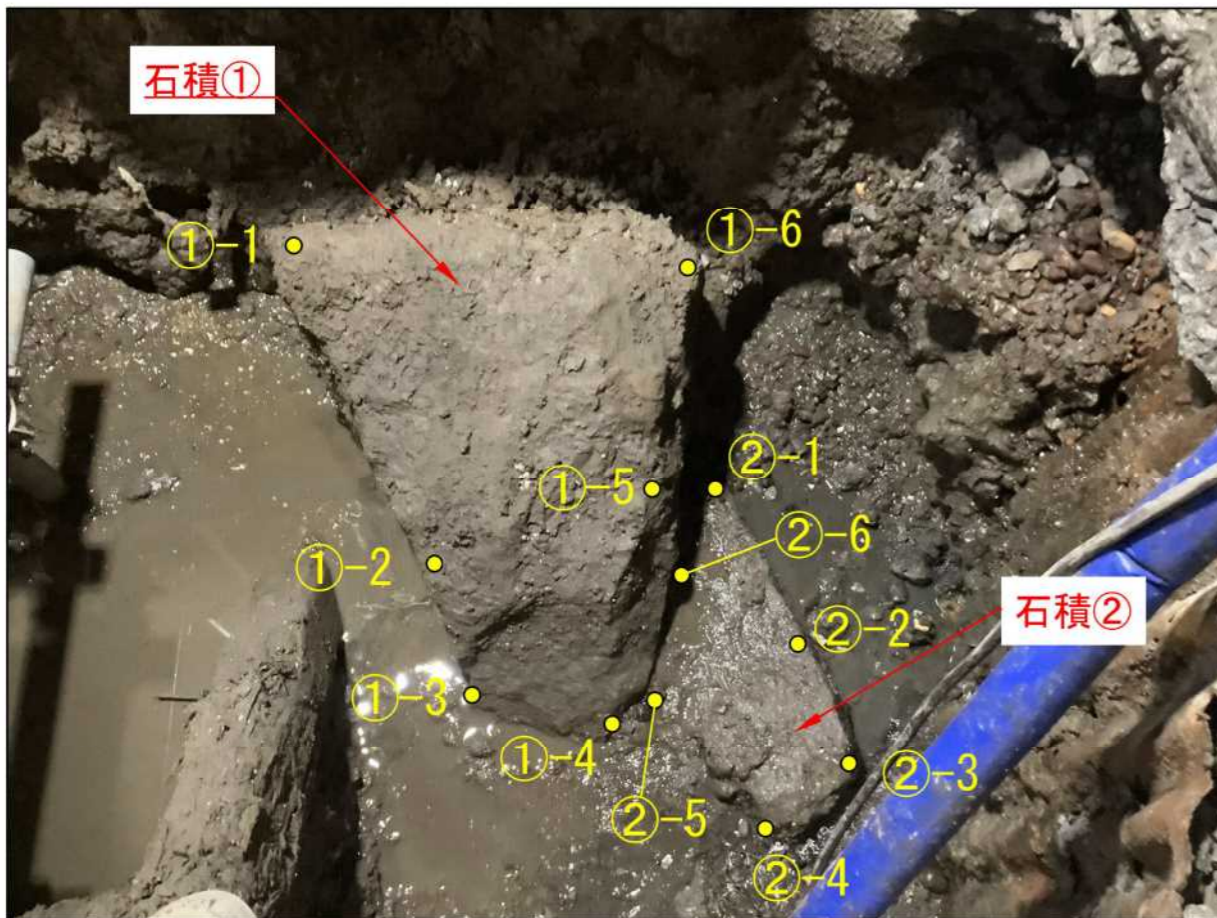
図3 断面図



(写真1) 石積全景



(写真3) 石積③



(写真2) 石積①②

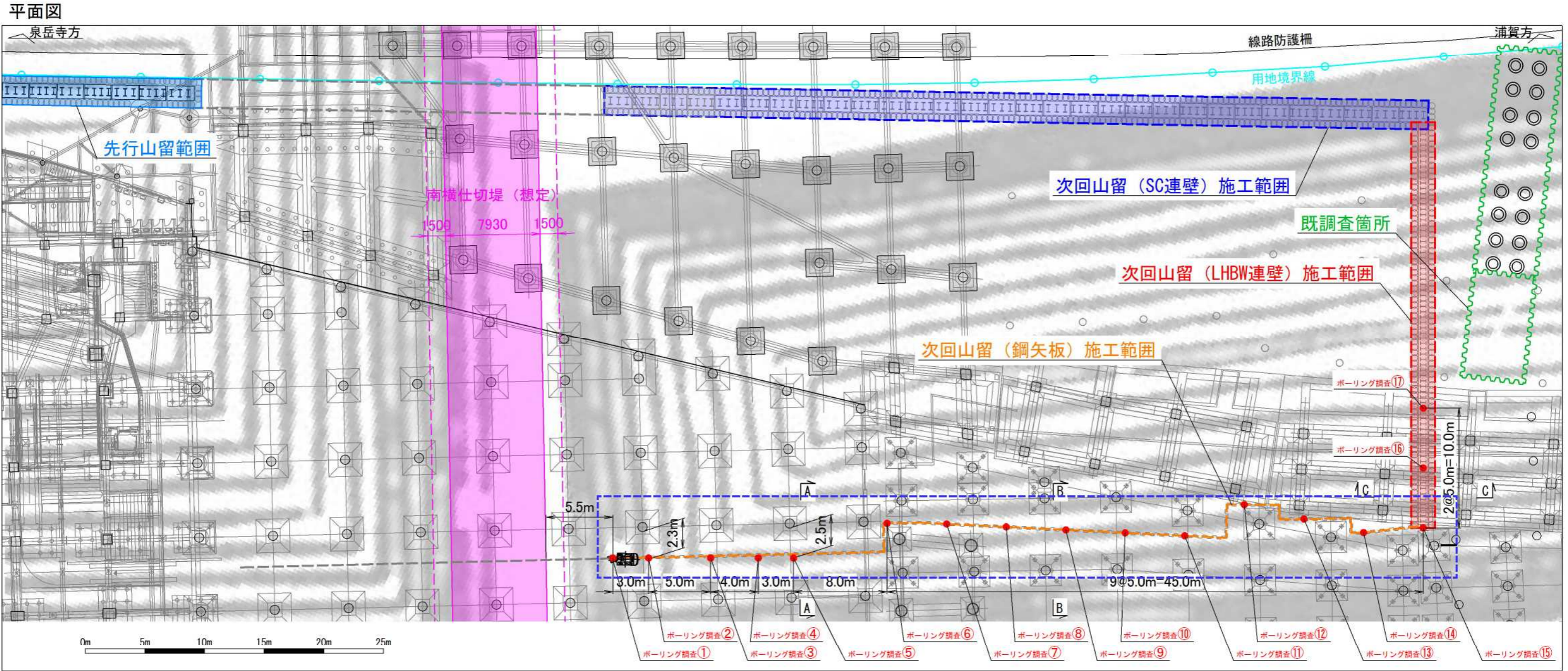
	測点	標高 (TP)
石積①	①-1	+0.466m
	①-2	+0.208m
	①-3	+0.078m
	①-4	+0.106m
	①-5	+0.299m
	①-6	+0.492m
石積②	②-1	+0.154m
	②-2	+0.133m
	②-3	+0.195m
	②-4	+0.135m
	②-5	+0.141m
	②-6	+0.151m
石積③	③-1	+0.609m
	③-2	+0.628m
	③-3	+0.617m
	③-4	+0.634m
	③-5	+0.523m

【調査の成果】

- ・試掘坑内から、間知石 3 個を確認。
- ・間知石上面の標高は、TP+1m未満 (左表参照)。
- ・探深棒で間知石下の支障物有無を確認。
→支障物にあたる部分があるが、間知石に伴うもの (裏込め等) であるか否かは確認できなかった。
- 支障物にあたらぬ地点もあるため、間知石が原位置を保っていない可能性もある。
- ・今後、今回の南側でも同様の試掘調査を行い、護岸石積の想定位置を精査する。

南棟事業地区におけるボーリング調査(2023.10.27現在)

【資料1-4】



地点No	No1	No2	No3	No4	No5	No6	No7	No8	No9	No10	No11	No12	No13	No14	No15
削孔深度 (T.P)	-3.002m	-4.005m	-2.005m	-1.998m	-1.997m	-4.003m	-2.005m	-2.003m	-4.001m	-2.000m	-2.008m	-3.000m	-2.002m	-2.004m	-3.004m
作業実施日	10/9	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/13	10/14	10/14	10/13	10/11	10/9	10/10	10/10	10/11

【調査の目的】

・南棟建設に伴う西側土留め工事(鋼矢板打設)にかかる遺構の有無等確認

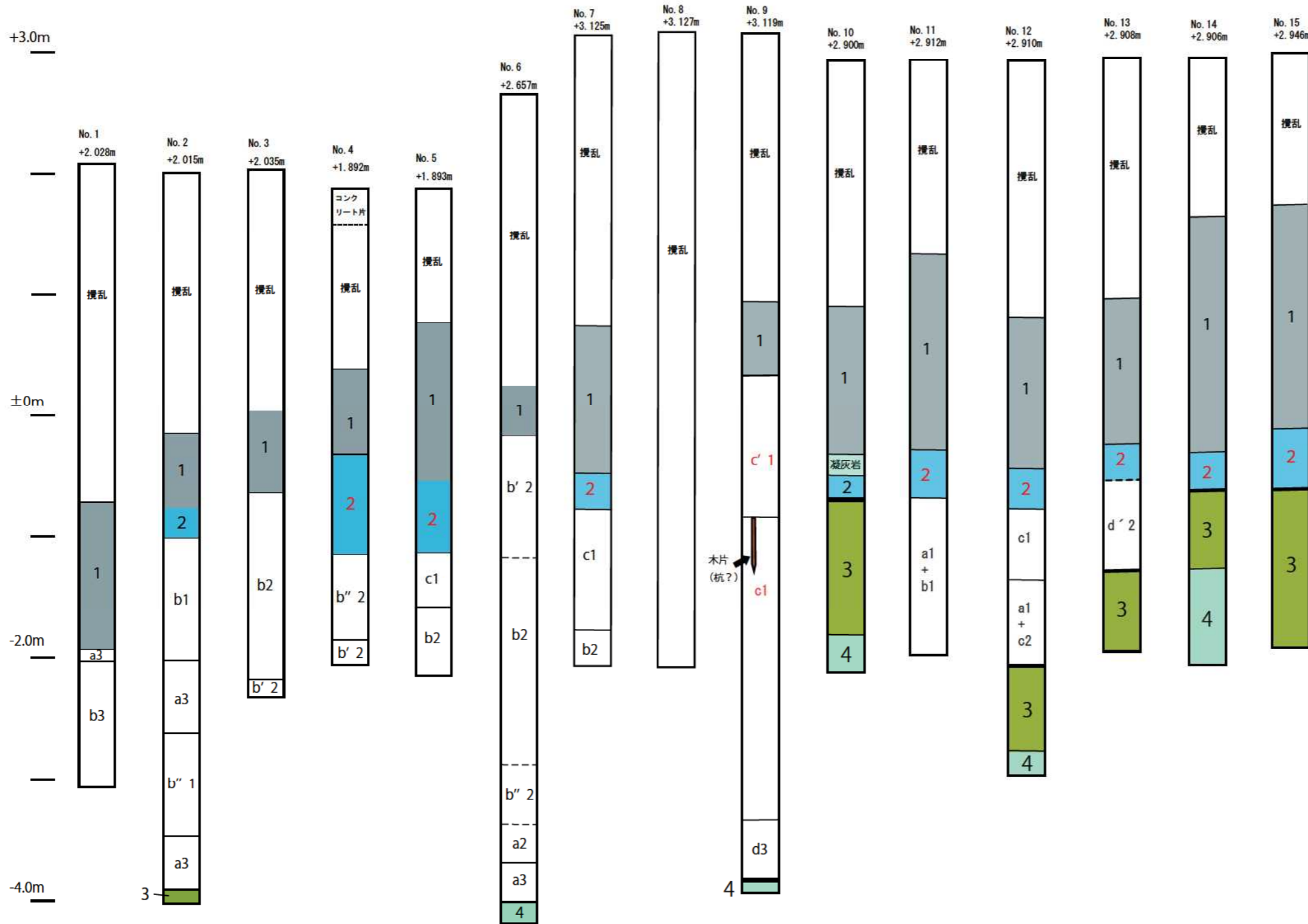
【調査の方法】

- ・ボーリング調査(Φ116mm)によるコアサンプルの採取と観察
- ・削孔深度はTP-2.0mを原則とするが、一部はTP-3.0mまでサンプリングを行う。
- ・コアサンプルは港区教育委員会が実見の上、所見を加える。

【調査期間】

- ・2023年10月9～14日 ※10/10に港区が途中経過を確認
- 基盤層の確認が困難であったことから、一部削孔深度を変更(TP-3m→TP-4m)
- サンプル採取日と最終的な削孔深度は上表のとおり。
- すべてのコアサンプルの観察を10/19に実施。

ボーリングコア観察結果 ※数字はすべて標高値 (TP)



【凡例】

- ①土層註記のうち、基本層序と見られるものは数字の1～4で示す。
- 1：黒褐色粘質土（泥土）
- 2：黒褐色砂礫層（貝片が混じる）
- 3：オリーブ色シルト層（自然堆積層か）
- 4：硬質粘土層（自然堆積層、高輪築堤の基盤層）
- ②基本層序以外の層序については、色調と土質をおおまかに分類し、下記ルールにしたがって分類した。
- ・色調はアルファベット（小文字）を、土質は数字を割り当て、その組み合わせで表現した。
- （色調）a: オリーブ色系 / b: 茶褐色系 / c: 黒褐色系 / d: 灰色系
- （土質）1: 粘土（or 粘性の強い土）/ 2: 粘性の弱い土 / 3: ブロック状に入る土
- （ex）a1=オリーブ色粘質土
- ・色調のうち、より明度の低いものは「'」を、明度の高いものは「”」を付して区別した。（ex）b'1=暗茶褐色土
- ③コアサンプル中に遺物を認めた層は、赤字で示した。

【調査所見】

- ①周辺の基本的な土層堆積状況は、凡例①のとおりと想定する。（No.10, 14, 15 が該当する）
※本来は、1層の上に「埋立て土」が乗るか？
- ②2層に含まれる遺物は、概ね近世（18～19C）であり、近代遺物は全く含まれていない。
→本来、海浜部のような環境にあった後、鉄道開業により水流が絶たれ、泥土（1層）が堆積するような環境へと変化したか？
- ③2層以外に包含されている遺物（No9-c' 1, c1）も、概ね近世（18世紀代か？）に帰属する。
- ④自然堆積層と考えている3・4層が確認されていない地点があるが、旧地形に由来するものか、人為的に作り出された窪みなのかは判別できなかった。
- ⑤No9・10では、TP±0～-1.0mまでの間に、凝灰岩と木片（杭？）が確認されているが、これらが構造物の一部か否かは判断できない。

※上記④・⑤の課題解決のためには、ボーリング調査ではなく面的な調査が必要であり、そのためにも、シートパイルの打設は必要であると考える。ただし、⑤については、シートパイル打設前に他の確認方法がないか、検討したい。

	No1	No2	No3	No4	No5	No6	No7	No8	No9	No10	No11	No12	No13	No14	No15
1 黒褐色粘質土 (泥土)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
検出標高(TP)	-0.772	-0.135	+0.035	+0.392	+0.793	+0.257	+0.725		+0.919	+0.90	+0.912	+0.81	+0.908	+1.696	+1.696
2 黒褐色砂礫層	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○	○	○	○	○	○
検出標高(TP)	-0.735	-0.615	-0.308	-0.507			-0.475			-0.5	-0.288	-0.44	-0.292	-0.344	-0.154
3 オリーブ色シルト層	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	○	○
検出標高(TP)		-3.885								-0.7		-2.09	-1.342	-0.644	-0.654
4 硬質粘土層	×	×	×	×	×	○	×	×	○	○	×	○	×	○	×
検出標高(TP)						-3.993			-3.881	-2.1		-2.79		-1.294	
備考								攪乱	木片(杭?)を確認	凝灰岩を確認					

【凡例】○=当該の層序を確認 ×=当該層序を未確認(削孔深度が不足している可能性も含む)

ボーリングコア写真 (左上が GL、以下 1m単位)

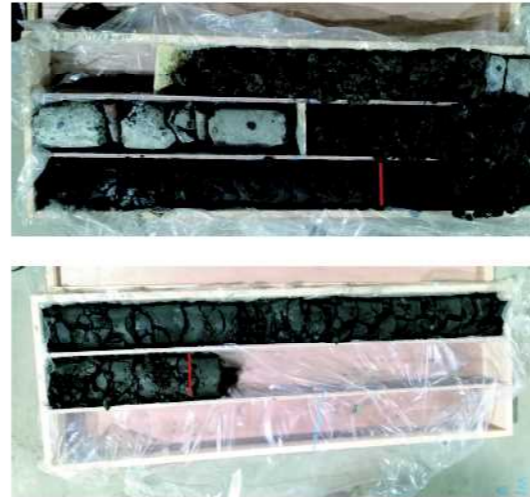
No.1



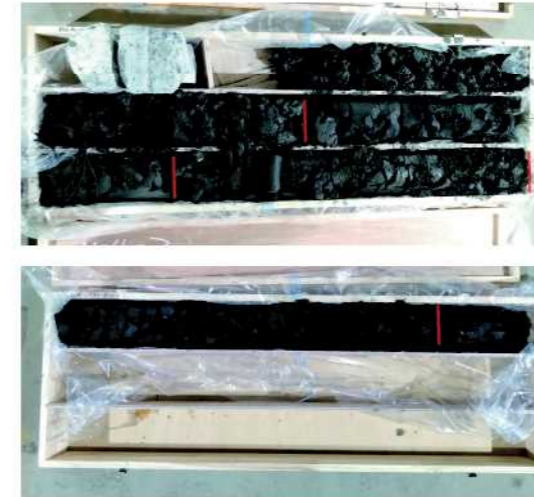
No.2



No.3



No.4



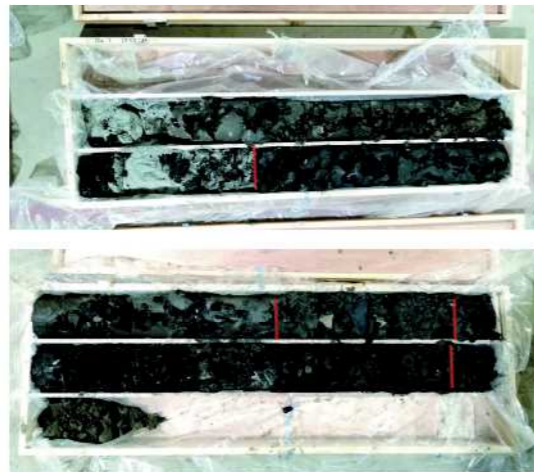
No.5



No.6



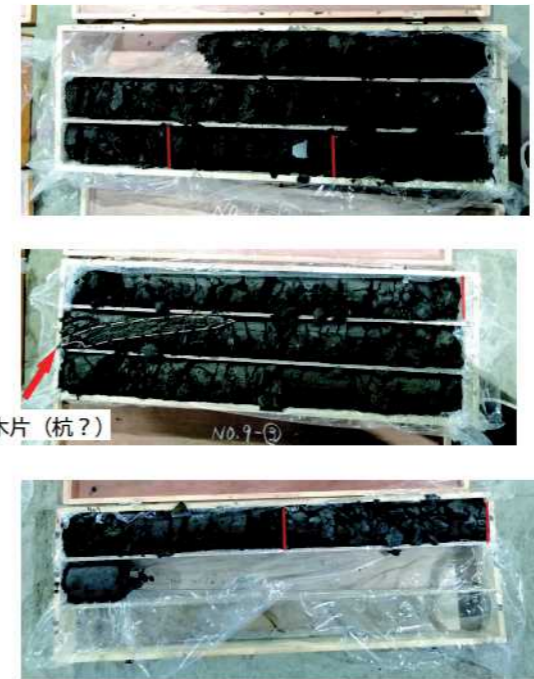
No.7



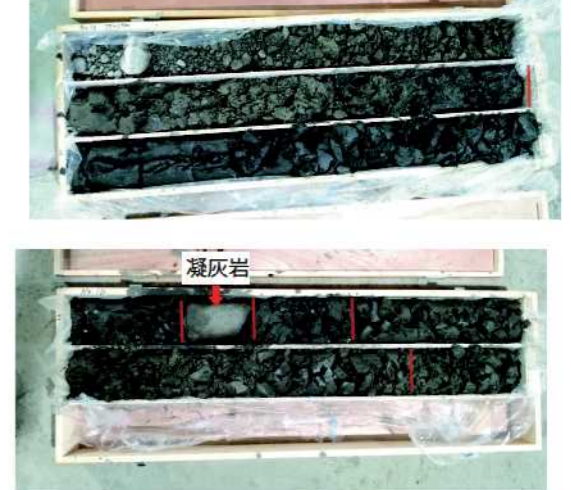
No.8



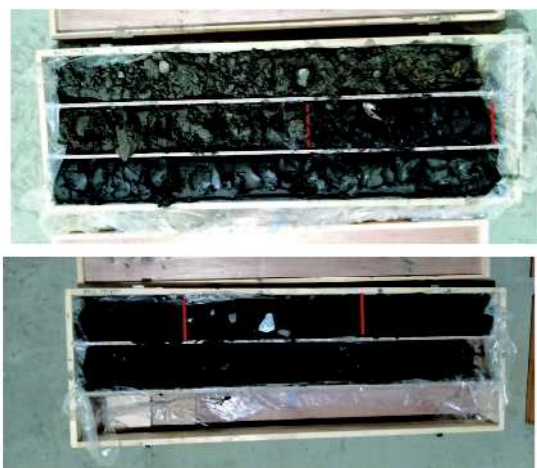
No.9



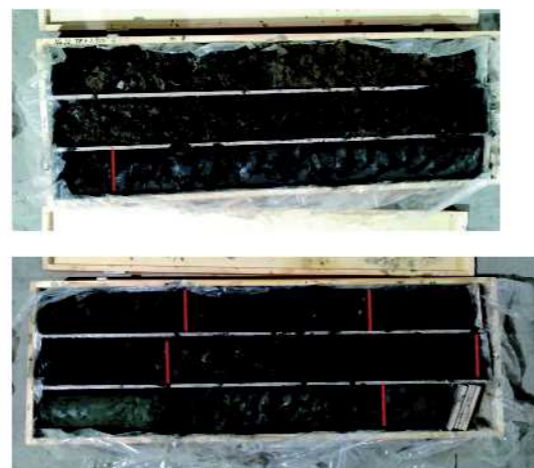
No.10



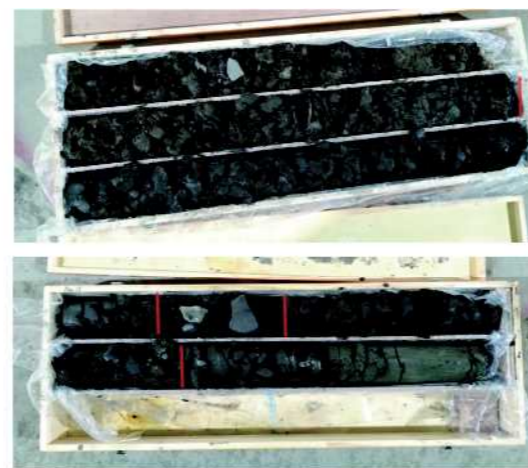
No.11



No.12



No.13



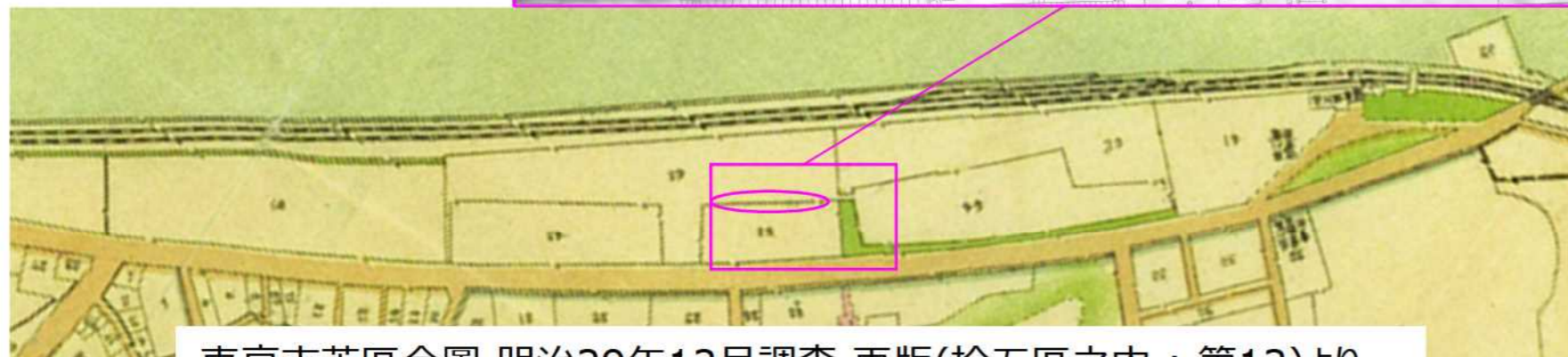
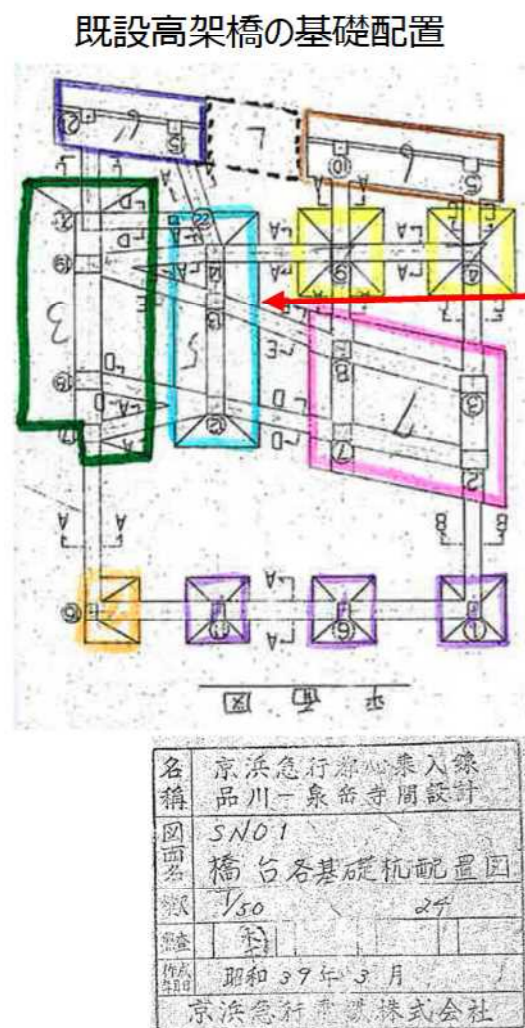
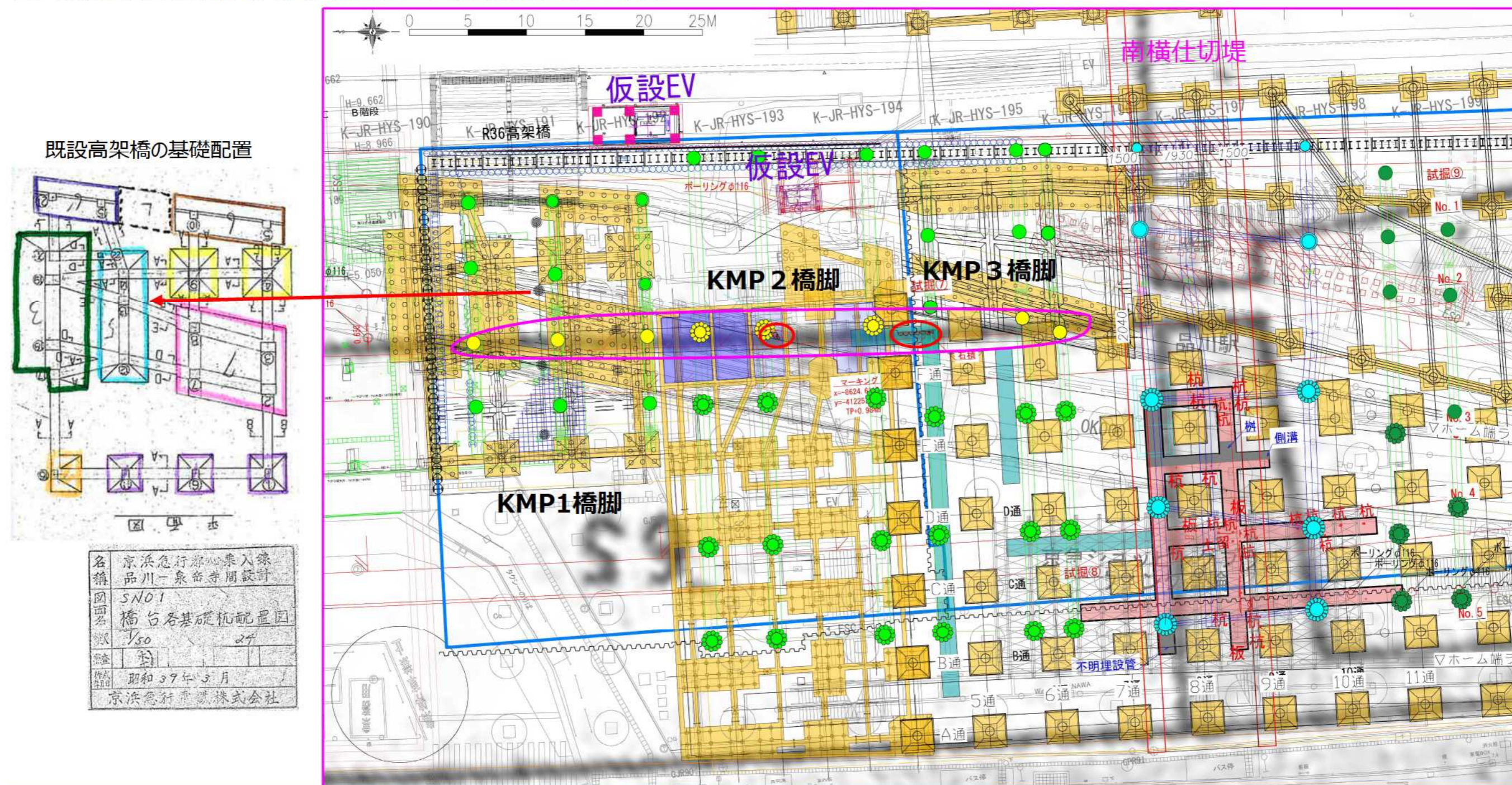
No.14



No.15



1. 南横仕切堤以北（自由通路まで）の仮橋脚杭計画の状況



東京市芝区全圖 明治29年12月調査 再版(拾五區之内；第12)より

凡例

- ... 計画仮橋脚杭
- ... 民地埋立護岸に支障の可能性(本件箇所)
- ... 汚水溜ピット(深さ3m)
- ... 想定南横仕切堤を回避し打設許可
- ... 水溜内試掘結果により打設許可
- ... 既設高架橋の基礎

2. 遺構（民地石積）に支障する可能性がある橋脚の状況と対応方針

